

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：横浜薬科大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	40	↑13	本委員会のメンバーは、学部長、教務部長、学生部長、厚生部長、各薬学科長、学生課および教務課の職員からなり、	平成 30 (2018) 年度の本委員会のメンバーは、学部長、教務部長、学生部長、厚生部長、各薬学科長、実務実習センター教授 3 人 (センター長、副センター長、センター教員)、実務実習プレ教育担当教員 2 人、基礎系教員 2 人、事務職員 3 人 (教務課 2 人、学生課 1 人) からなり、
2	51	↑6	新カリキュラムでは、4～6 年次前期の卒業研究の単位が 10 単位、問題解決能力の醸成に向けた教育が 17 単位である。これらを合わせると、卒業研究を含む問題解決型学習の単位は合計 27 単位であり、	新カリキュラムでは、4～6 年次前期の卒業研究の単位が 10 単位、問題解決能力の醸成に向けた教育が行われている科目において、SGD、TBL、PBL が行われている回数 (時間数) を、全回数 (総時間数) に対する割合で単位に換算すると 9.1 単位である。これらを合わせると、卒業研究を含む問題解決型学習の単位は合計 19.1 単位であり、
3	51	↑2	なお、旧カリキュラムにおいては 5～6 年次前期の卒業研究の単位が 6 単位であったこともあり、卒業研究を含む問題解決型学習の単位は合計 18 単位であった。	なお、旧カリキュラムにおいては 5～6 年次前期の卒業研究の単位が 6 単位であったこともあり、卒業研究を含む問題解決型学習の単位は合計 13.7 単位であり、卒業要件単位数の 1/10 を満たしていなかった。
4	52	表 6-1		実質的な実施回数 (時間数) とそれに基づく換算単位を追加 (別紙 1)
5	77	3	学生委員会には学生相談員 (若手の准教授、講師および助教を中心とした 8 人、部長 2 人、臨床心理士 1 人、看護師 2 人、事務職員 2 人) を配置	学生の相談には、学生相談員 (若手の准教授、講師および助教を中心とした 10 人)、学生部長、教務部長、臨床心理士 1 人、看護師 2 人、事務

			し、学生が意見を述べやすい組織を構築している。	職員2人を配置し、学生が意見を述べやすい組織を構築している。
6	78	9	財団法人	公益財団法人
7	78	↑3	全教職員と学生	全学生
8	81	↑3	20～40歳代	20～40歳代
9	83	↑3	40～50歳代	40～50歳代
10	88	↑7	教務部、学生部、厚生部および入試部からなる運営体制における各部署の役割を明確にし、	教務課、学生課、キャリアセンターおよび入試広報課からなる運営体制における各課の役割を明確にし、
11	95	15	学生1人当たり2.88m ² である。	学生1人当たり2.88m ² であったが、F棟共同研究室の新設により学生1人当たり4.72m ² となった。
12	96	↑10	設置された3室の自習談話室、ドリームビル3階などの自習室	設置された3室の自習談話室、講義棟1階の2室の学生ラウンジ、ドリームビル3階などの自習室

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	11	163	25～32		F棟共同研究室を追加 (赤字)
2	12-1	164	講義室・演習室		多目的講義室を追加 (赤字)
3	12-1	164	自習室 備考	室数 6 収容人員合計 205	室数 8 収容人員合計 255 学生ラウンジを追加 (赤字)
4	12-2	165	表1 施設名		F棟共同研究室を追加 (赤字)

添付資料

- ・(基礎資料 11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ 訂正版
- ・(基礎資料 12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況 訂正版
- ・(基礎資料 12-2) 卒業研究などに使用する施設 訂正版

別紙 1

表 6-1 問題解決能力の醸成に向けた教育

授業科目	年次	単位数	SGD、TBL、PBL 実施回数/全回数	換算単位数	評価表
社会薬学 1	1	1	2/10	0.2	資料 27
早期体験学習	1	0.5	2/6	0.2	資料 28
社会薬学 2	2	1.5	12/15	1.2	資料 24
生物系実習 1	2	1	18/30 ¹⁾	0.6	資料 62
生物系実習 2	2	1	16/30 ¹⁾	0.5	資料 63
物理系実習 1	2	1	20/30 ¹⁾	0.7	共通ループリック
物理系実習 2	2	1	22/30 ¹⁾	0.7	資料 64
化学系実習 1	2	1	26/30 ¹⁾	0.9	共通ループリック
化学系実習 2	2	1	21/30 ¹⁾	0.7	共通ループリック
衛生薬学実習	3	1	22/30 ¹⁾	0.7	資料 67
薬理学実習	3	1	20/30 ¹⁾	0.7	資料 65
薬事法規・制度 1	3	0.5	4/5	0.4	資料 104
薬事法規・制度 2	3	1	1/10	0.1	資料 105
薬事法規・制度 3	4	1	1/10	0.1	資料 106
疾患別治療特論 1	4	1	2/10	0.2	資料 107
医療コミュニケーション論	4	1	2/10	0.2	資料 31
薬学外国語文献講読	5	1	—	1	資料 108
卒業研究 (新カリキュラム)	4～6	10	—	10	資料 103
合 計		27		19.1	
卒業研究 (旧カリキュラム)	5～6	6	—	6	資料 103
合 計		18		13.7	

1) 実習科目においては、(技能習得等に費やす以外の時間) / (実習に係る総時間) を表す。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

5年生の在籍学生数 334 名
6年生の在籍学生数 304 名

	配属講座など	研究室	指導教員数	5 年生 配属学生数	6 年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	生化学	C21, C34	4	16	15	31	129.60
2	分子生物学	C22	2	5	6	11	97.20
3	薬物解析学	C23	2	14	11	25	97.20
4	環境科学	C24	3	15	16	31	97.20
5	薬品分析学	C31	2	6	13	19	97.20
6	薬物治療学	C32, C34	4	16	16	32	129.60
7	生薬・薬用資源学	C33	3	8	5	13	97.20
8	機能形態学	C41	4	17	18	35	97.20
9	薬理学	C42	4	16	16	32	97.20
10	薬剤学	C43	4	19	16	35	97.20
11	臨床薬剤学	C44	5	22	22	44	97.20
12	生体防御学	D32A	3	16	14	30	97.20
13	放射線科学	D32B	3	12	12	24	97.20
14	臨床薬理学	D41	4	11	5	16	97.20
15	食化学	D42, C34	4	18	14	32	129.60
16	感染予防学	D43	3	16	15	31	97.20
17	公衆衛生学	D44	3	13	15	28	97.20
18	漢方天然物化学	E31A	3	10	6	16	97.20
19	薬品反応学	E31B	3	14	10	24	97.20
20	医薬品化学	E32	3	10	13	23	194.40
21	薬物動態学	E41	4	17	9	26	97.20
22	病態生理学	E42	4	19	14	33	97.20
23	漢方薬物学	E43	4	11	9	20	97.20
24	漢方治療学	E44	3	13	14	27	97.20
25	F棟共同研究室	F31					147.11
26	F棟共同研究室	F32					147.11
27	F棟共同研究室	F33					147.11
28	F棟共同研究室	F34					147.11
29	F棟共同研究室	F41					147.11
30	F棟共同研究室	F42					147.11
31	F棟共同研究室	F43					147.11
32	F棟共同研究室	F44					147.11
	合計			334	304	638	

(共同使用)

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状態

施設 ¹⁾	座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	講義室(大)	487及び416	3	1室はLeo Esaki記念ホール(固定机)、他は可動机
	講義室(中)	300	4	全て固定机
	講義室(小)	52、68、160、200	15	52×2、68×2、160×6、200×5 全て可動机
	多目的講義室	78、62	2	全て可動机
	情報処理・LL教室	120	2	各室PC120台、合計240台、CBTにも使用
実習室	化学系実習室	120	2	化学系実習で使用
	生物系実習室	120	1	生物系実習で使用
	物理系実習室	120	1	物理系実習で使用
	薬剤学、衛生薬理実習室	120	3	薬剤学実習、衛生薬学実習、薬理学実習で使用
	模擬薬局	—	1	調剤室、模擬病棟、無菌室、セミナー室
自習室等	自習室	90、57、50、48、10	8	ドリームビル3階(90)、ガーデンラウンジ(57)、学生ラウンジ(25)×2、自習談話室(16)×3、薬学教育センター学習室(10)、その他に自習室は図書館にもある(基礎資料13)
	食堂及び講義室	597、200、160、80、48	5	未使用時に食堂および一部の講義室を自習室として使用
薬用植物園	1) 設置場所：薬学部キャンパス内 2) 施設の構成と規模：温室(110㎡)及び花壇等 計1,850㎡ 3) 栽培している植物種の数：300～350 4) その他の特記事項：漢方薬学科の教育で使用、薬用資源学の卒業研究の卒業研究の研究材料を育成、育成が困難なオタネ人参を育成。年間1,000人以上の見学がある。			

[注] *コンピュータ演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください。

*学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

- 1) 総合大学では薬学部で教育で使っている講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考に記入してください。

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ¹⁾	面積 ²⁾	収容人員 ³⁾	室数 ⁴⁾	備考
専門研究室 (中)	194.40㎡	50人	1	教員室、セミナー室、研究・実験室
専門研究室 (小)	97.20㎡	25人	24	同上
F棟共同研究室	147.11㎡	—	8	セミナー室、研究・実験室

- 1) 講座・研究室が占有する施設 (隣接する2～3講座で共用する施設を含む) を記載してください。
- 2) 実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。せん。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ¹⁾	室数	施設の内容
中央機器室	8	E S R室、機器管理室、質量分析室、NMR室、単結晶X線解析装置室、組織培養室、分子生物室、機器室
動物施設	9	監視室、無菌飼育室 (3室)、一般飼育室 (1室)、行動解析室、実験室、洗浄室、機械室

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。(面積などは不要です)